Tulips University of Tsukuba Repository

資料　戦後の作文・書くことに関する主要な能力表

著者	長田 友紀, 菊田 尚人
雑誌名	人文科教育研究
号	42
ページ	67-78
発行年	2015-08-18
その他のタイトル	Writing Standards in Postwar
URL	http://hdl.handle.net/2241/00126255

人文科教育研究　42　2015年　pp. 67－78

資料

戦後の作文・書くことに関する主要な能力表

長　田　友　紀
菊　田　尚　人

本資料について

本資料は，戦後の作文や書くことに関する主要な能力表を整理したものである。対象となる資料は，学習指導要領も含め，戦後から現在にいたるまで発表された能力表である。各学年ごとの能力やスキルが一覧表の形ではっきりと示されているものを選んだ。本資料によって，国語教育において，学年ごとに書くことのスキルや能力がどのように提案されてきたかが分かる。

資料の見方は次の通りである。「番号」は本資料の最後に付した文献一覧の番号である。「著者」も文献一覧の著者名を代表として記した。「1年～6年」は各能力表で示された書くことに関するスキルや能力を転載してある。

本資料の作成にあたっては，科研費基盤研究(B)（26285196）「作文を支援する語彙・文法的事項に関する研究」（研究代表：矢澤真人）の助成を受けた。

番号	著者	出版年	1年	2年	3年
1	小鳥忠治	1950	作ること 1 自分のしたこと見たことを絵にかきそれについてお話ができる 2 文字板を利用して単語が書け、それについてお話をすることができる 3 身近なできごとを二百字ぐらいの文に書くことができる 4 家庭へのかんたんな伝言が書ける 5 話のようなみじかい文が書ける 6 、や、をつけることができる 7 文字板の単語がわかりそれについてお話ができる	1 観察したことを書くことができる。(動植物) 2 四〇〇字ぐらいの生活文が書ける 3 見学したことについて、かんたんに書ける 4 かんたんな手紙がかける 5 童話がかける 6 かんたんな用件や伝言を書くことができる 7 だいたいの順序をたてて書くことができる 8 、、「」をつけることができる 9 促音、拗音、長音、拗長音、濁音が正しく書ける	1 長期観察の記録が書ける 2 調べたことについてかんたんな説明がかける 3 自治会の記録や学級日記が書ける 4 聞いた話や読んだ話についてかんたんな感想がかける 5 招待状や見舞や問合わせ礼状などいろいろの手紙がかける 6 経験を八〇〇字ぐらいの文にかける 7 表し方の巧みなところがわかる 8 書くことがらを決めてから書くことができる 9 標準語で書けるようになる 10 誤字脱字を見つけ出すことができる 11 文をくわしくするために必要なことばを書きそえることができる 12 、、「」が正しく使える 13 敬体・常体の使いわけができる 14 原稿用紙の使い方になれる 15 かべ新聞、紙芝居の脚本がかける
			書くこと 1 書くことに興味をもつ 2 書くときの姿勢に気をつけえんぴつクレヨンの持ちかたになれる 3 筆順や字形に注意してかける 4 4Bえんぴつ石筆(ロー石)チョーク、クレヨンなどで字が書ける 5 学習した文字の八〇%は正確に書ける 6 一分間に一〇字位模写できる 7 同一文字、同一語句の文字をさがしだして、線でむすんだり、手でかこったり傍線をつけたり、線で囲ったりすることができる	1 おちついて、ていねいに書ける 2 形をととのえて文字がかけるようになる 3 紙やノートの使い方になれる 4 一分間に二〇字ぐらいの視写ができる	1 美しく書こうとする注意をもって書ける 2 文字の各部分のつりあいがわかってくる 3 筆順の慣習になれる 4 だんだんかさい字が書けるようになる 5 けいのない紙に字を揃えて書けるようになる 6 一分間に二五字ぐらいの視写ができるようになる
2	文部省	1951	(作文) 1 文字で書くことに興味がわいてくる。 2 簡単な口頭作文ができる。 3 自分で書いた絵に、簡単な説明をつけることができる。 4 家庭への伝言など、簡単なメモを書くことができる。 5 自分の行動や身辺のできごとなどについて、簡単な文を書くことができる。	1 生活を主とした絵日記を書くことができる。 2 簡単な絵話を書くことができる。 3 感情のこもった短い文を書くことができる。 4 身近な生活の報告や記録を主とした簡単な文を書くことができる。 5 親しい友だちや先生などに簡単な手紙を書くことができる。 6 簡単な礼状や招待状を書くことができる。 7 順序正しい筋の通った文を書くことができる。 8 お互の作文を読み合って楽しむことができる。 9 文の終の使い分けができる。 10 でんや、まるをうつことができる。	1 飼育栽培などの長期にわたる記録が書ける。 2 簡単な紙しばいの台本が書ける。 3 日記・手紙・報告などを書くために、その素材をまとめることができる。 4 児童会やクラブ活動に必要な情報を、短い文にまとめることができる。 5 文を詳しくするために、必要なことばを書き加えることができる。 6 文の筋をはっきりさせるために、不必要なことばを削ることができる。 7 自分の作品を整理したり、文集をつくったりすることができる。 8 新しいことばを使用する興味が出てくる。 9 ことばの正しい使い方の基礎ができる。 10 よく推敲することができる。 11 自分の作文や人の作文について、評価を始める。 12 文字のほかの諸記号の使い方がわかる。
			(書き方) 1 文を書くことに興味をもち、書くことに意味がわいてくる。 2 書くときの姿勢や用具の扱い方がわかる。 3 鉛筆で字を書くことができる。 4 一・五センチ角ぐらいの文字が書ける。 5 自分の名まえを書くことができる。 6 簡単な問に対して答を書くことができる。 7 視写することができる。 8 簡単な語や文を書くことができる。 9 文字に筆順のあることがわかる。 10 ひらがな書ける。 11 読める漢字のだいたいが書ける。 12 アラビヤ数字が書ける。	1 運筆がだんだん楽になってくる。 2 視写ができる。 3 簡単な文の句点・とう点などを書くことが出る。 4 文字の形が、だんだん整ってくる。 5 ノートの使い方がわかる。 6 かたかなのだいたいが書ける。 7 読める漢字のだいたいを書くことができる。	1 一・二センチ角ぐらいの大きさの字が書ける。 2 横書きができる。 3 白紙や、けい紙が使えるようになる。 4 はがきや手紙を書くことができる。 5 封筒の上書きを書くことができる。 6 標準的な筆順で書くことができる。 7 文字を組立る基本の形(へん・つくり、かんむり)のあることがわかる。 8 文字の形を整えるための能力がだんだん発達してくる。 9 読める漢字のだいたいが書ける。 10 かたかなが書ける。
3	倉澤栄吉	1952	[一] 通信 1 相手をきめて文を書くことに慣れる	2 だれかに出来事を知らせることの意義がわかる 3 通信のたのしさが身につく	4 文を書きながら、読む人の気持ちを考える 5 相手を喜ばすように書く態度ができる
			[二] 書式 1 文には、、や。のあることを知る 2 紙の天地、左右のあけ方のあることを知る	3 文のはじめ、中、おわりなどの部分のあることを知る 4 紙のスペースの使い方に慣れていく	5 日記や手紙の形式を理解する 6 文の段落を考えながら書く 7 ふつうの文のほかに台本や対話文や日記文などのあることを知る 8 白紙やけい紙に字の配置を考えて書くようになる 9 縦書き、横書きの二つあることを知る
			[三] 通達 1 内容をいくつかまとめてわかりやすく示すようになる 2 書いたあとで読みなおす習慣をつける	3 内容をふるいわけて書くような努力をする 4 書いたことを読みなおして、少しずつなおすようにする	5 大ぜいの人に読ませる文やことばの役目を知る 6 人に見せる文には使うことばを選ぶことを考える 7 はっきりと書き表すように注意するようになる
			[四] 記録 1 身のまわりのことを思いついて気軽に書くようになる	2 経験したことをそのまま書くようになる 3 書いてあることを正しく復写することに慣れる 4 生活上のおもしろい体験が適切に回想できる	5 長い時間にわたって継続して一つのことを書きつけるようになる 6 思案に書きつけるために、物事をよく観察するようになる
			[五] 感想 1 何かを思ったらそれを文にすることを試みる 2 自分の思ったことを文にすることに興味を持つ	3 短いことばで、生活経験を思い出して書きつけることに慣れる	4 感じたこと、行ったことを文にする心構えを確かにする 5 すべての文に、自分の感じたことを書き加えたり考えなおすようにする
			[六] 創作 1 自由に文を作ることのおもしろさが身につく	2 短いことばで自由に書き表すことに興味を持ちはじめる	3 各教科の学習で話を作ったり脚本を作ったりすることを楽しむ 4 自分の考えを書いて、みんなに分かちあうことを楽しむ
4	波多野完治・滑川道夫	1953	1、クレヨンやふといエンピツで、じぶんの名まえを書く。(○や△などのかんたんな図形・やさしいひらがな・面由線・絵などを地面や紙に書く、小黒板に書く、大きな紙に書く) 2、エンピツで(ひらがな)を書く 3、四cm平方のひろさに書くことから、cm二平方のひろさに字を書く 4、書くときの正しい姿勢をおぼえる 5、エンピツの正しい持ちかたをおぼえる 6、空書、指書をする。(空中に大きく手を動かして書くのと、机に指で書く) 7、かんたんな漢字の書きかたをおぼえる(筆順を正しく、字源的興味をもって。五〇字くらいを、教科書および郷土の地名、姓名、広告などでおぼえるのは無理でない。数詞[一―十・1―10]を書く) 8、生活経験を絵にして、それにかんたんなことばや文を書く 9、うすい紙を教科書にのせて、透視書写をする 10、一分間に十字ぐらいの速さで教科書の文を視写する 11、かんたんな文を、分解的に読写する 12、じぶんの書いた絵について話ができて、かんたんな説明をひらがなで書く 13、絵日記を書く。(絵だけのものから、かんたんな文をふくむものに展開する) 14、学校から家庭へのかんたんな伝言を書く 15、かんたんな文を(はがき)や(てがみ)に書く 16、他人言ったことばをおぼえて書く 17、身近かなできごと(家庭・途中・学校)を書く 18、かんたんな骨響を文字で書く 19、句読点をうつことをおぼえる	1、ひらがなせんぶを形をととのえて書く 2、カタカナをひらがなと対照して書く 3、漢字の書きかたを称らし行字ぐらいおぼえる 4、筆順運筆をおぼえて練習する 5、かんたんな部首をおぼえる 6、ノートにふつうのエンピツでマスからはみださないように書く。(一・五cm平方) 7、行をそろえて書く 8、擬声音をカタカナにして書ける。(ひらがなカタカナの混用をさけることは主だ要求したい) 9、家庭、学校生活の興味ある題材で日記を書く 10、観察を主とした絵日記を書く 11、かんたんな紙しばい形式の絵ばなしを書く 12、欠席の友だちにかんたんな手紙を書く 13、経験の順序にしたがって話したことをもとにして文を書く 14、ひらがな文の中に習った漢字を使って文を書く 15、視写と読写の練習をする。(視写一分間二十字) 16、感動のこもったみじかい文を書く 17、書き終わった文を読み返したり、友だちどうし、おたがいに読み合って、まちがいをみつけたらなおすことをおぼえる 18、句読点「」のつけかたをおぼえる	1、一・二cm平方のマスに文字をはみださないように書く 2、漢字一四〇字ぐらい書く 3、正しく文字(部・筆順)を書くように注意する 4、実際生活の必要と興味から「はがき」や「てがみ」を書く 5、原稿用紙を使って書く 6、文字の正誤美醜に配慮して書く 7、じぶんの書いた文字の欠点をみつけて書きなおしたり練習したりする 8、友だちの文を読んで美点をみつける 9、左横書きをする 10、観察・見聞・観察などの記録文がかける 11、学級日誌を書 12、読んだ物語や聞いた話の感想を書く 13、映画・ゲントウ・人形劇を見た感想を書く 14、学習の要点をノートに書く 15、じぶんの生活経験をできるだけくわしく書く 16、遠足、見学などの記録を書く 17、学芸会、読書会、運動会、誕生会などの案内状を書く 18、学級・学校行事のプログラムを書く 19、文ができてから、くりかえし読んで、気に入るようになおしてみる 20、助詞の正しい使いかたをおぼえる 21、写生の文や詩を書いてみる 22、学級のかべ新聞を協力して作る

4年	5年	6年
1 見たこと、聞いたこと、読んだことについて感想や意見をかくことができる 2 見学したことや調べたことについて報告する文が書ける 3 計画をたてるためにかんたんな案を書くことができる 4 いろいろの標語が書ける 5 運動会、学芸会、子供会などのプログラム、宣伝文、広告文が書ける 6 長期にわたるいろいろの日記が書ける 7 用途によるいろいろの手紙が書ける 8 話をきいてかんたんなメモをとることができる 9 経験を一二〇〇字ぐらいの文に書ける 10 調べたこと、思っていること、考えたことをくわしく書くことができる 11 文の組みたてを考えて書くことができる 12 時の観念(過去、現在、未来)についてはっきりことばの使いわけができる 13 学級新聞や文集などを共同で編集することができる	1 資料をあつめて調査したり、研究したりしたことをまとめて記録することができる 2 自治会などの記事録などを書くことができる 3 随筆、詩、物語り、劇等の文学的な文を書くことができる 4 学校や学級の行事を家庭へ知らせる通信文がかける 5 電報文がかける 6 目次をつけて文を書くことができる 7 標準語と方言との使いわけができる 8 主題と照合して推敲ができる。(加除添削)	1 演劇映画ラジオなどの感想意見などが書ける 2 討議に参加するための原稿が書ける 3 いろいろな委員会の報告が書ける 4 実験観察調査の仕方や結果についての説明文が書ける 5 学校に於ける諸活動についての規約をつくることができる 6 新刊書の内容を批評し紹介する文章がかける 7 学校新聞に掲載する各種の文がかける 8 いろいろな文について批評鑑賞の文がかける 9 用途によるいろいろな手紙がかける 10 資料をととのえ、主題をはっきりさせ、組立を考えて文を書くことができる 11 くわしい表現、省略した表現ができる 12 学校新聞の編集ができる
1 運筆が速く正確になる(一分間の写字が仮名五漢字一の割合の文の字二五字ぐらい) 2 模書にもなれてくる 3 ペンの使い方にもなれる 4 学習した漢字の八〇%が書ける 5 新字に対しても筆順がわかるようになる 6 かなづかいが正しく書ける 7 ローマ字の単体が書ける	1 視写は一分間平均三〇字ぐらいの文字がかける 2 はがきや手紙の書状になれる 3 必要により鉛筆の使い方になれる 4 教育漢字の七〇%が書ける 5 学級日誌などの記録ができる 6 ローマ字の連続体になれる 7 ノートの巧拙美醜がわかる	1 視写が一分間に平均三五字位書ける 2 自由にかいて乱れないようにかける 3 届書の書式が書ける 4 原稿用紙が正しく使える習慣ができる 5 教育漢字の八〇%が書ける
1 読んだ本について、その荒筋や感想が書ける。 2 いろいろな行事についての標語や宣伝・広告の文が書ける。 3 見学、調査などの簡単な報告の文が書ける。 4 ゲームの解説や作業計画などについて、説明の文を書くことができる。 5 児童詩をつくることができる。 6 物語や脚本を書くことができる。 7 多角的に取材して、まとまりのある生活日記を書くことができる。 8 文の組立を考えて、段落のはっきりした文を書くことができる。 9 敬体と常体との使い分けをすることができる。	1 調査や研究をまとめて、記録や報告の文が書ける。 2 児童会やクラブ活動などのいろいろな会の、簡単な議事録をつくることができる。 3 注文・依頼・お礼など、いろいろな用件に応じた手紙が書ける。 4 電文が書ける。 5 書いたり話したりするために、素材を整えて簡単な筋書きをすることができる。 6 一つの文を補記したり、省略したりして、主題のいっそうはっきりした文にすることができる。 7 小見出しをつけて、文を書くことができる。 8 方言を区別して書くことができる。 9 敬語を適切に使って、文を書くことができる。 10 適切な語を選ぶ能力が高まってくる。 11 語いが増大してくる。 12 表現が創造的になってくる。 13 多くの作品を読んで、書く能力を高めることができる。	1 映画・演劇・放送などについて、感想や意見を書くことができる。 2 自分の意見を効果的に発言するために、原稿を書くことができる。 3 自分の生活を反省し、文を書くことによって思索することができる。 4 読んだ本について紹介・鑑賞・批評の文を書くことができる。 5 学校の内外の諸活動に必要なきまりを書くことができる。 6 学校新聞を編集することができる。
1 文字の形・大きさ・配列などに気をつけて、書くことができる。 2 標語やポスターなどを書くことができる。 3 原稿用紙が使えるようになる。 4 いろいろな表や、こづかい帳の記入などができる。 5 読める漢字のだいたいが書ける。 6 (毛筆で字を書くことができる。) 7 (ローマ字が書ける。)	1 一センチ角以内の細字が書ける。 2 書いた文字のよしあしがわかり、進んで上達しようと努力するようになる。 3 名札・表紙・案内・掲示などを書くことができる。 4 ペンで字を書くことができる。 5 読める漢字のだいたいが書ける。	1 自然な姿勢で、能率的な運筆ができる。 2 欠席届や、願書類などを書くことができる。 3 文字の形、大きさ、配列などが整ってくる。 4 行書が書ける。 5 早く自由に書けるようになる。 6 鉛筆を使うことができる。 7 読める漢字のたいたいが書ける。
6 相手に通ずることばづかいをする 7 多様な内容を通信に盛るように努める 8 不必要なことをむやみに通信文に書き入れないようにする	9 相手の心持ちを考えて書く 10 社会生活上の必要な通信を始めるようになる	11 自分の意見を述べて相手の批判や賛成を求めるようになる 12 自分の心の中を、信頼する相手に訴えようとする
10 段落や箇条書きの形式に慣れる 11 グラフ、原稿紙、図表などを適切に使う技術を身につける	12 届や願書などの実用上の書式がわかる 13 細字書き、大字書きの使い分けに慣れる 14 題目や小見出しなどの形の使い方を覚える	15 願書、届書などを書いてみる 16 原紙の種類、そのけり方などに慣れる 17 表紙、口絵、とびら、目次などの形式を理解し自由に使う
8 書いたことを清書するようになる 9 なるべく客観的な説明や報告をしようと心がける 10 語いの効果を注意するようになる 11 読む人のちがいによって説き方・述べ方を変える	12 人に伝える前に、方言や特殊な言い方を調べてなおすように心がける 13 書いたことを、もう一度調べて、正しいとの信念を持って表すようになる 14 大事なところはことば使いを十分に吟味するように心がける	15 視覚のある述べ方を身につける 16 知識や、情報を他の人に提供して役に立てることを喜ぶ 17 大ぜいがわかるような表現の形式やていさいをよく考えて書くようにする
7 記録するときに、その真実性を考えてみるようになる 8 メモを確実にする習慣を養う 9 要点をしっかりつかんで観察するようになる	10 節や章を分けて記録する能力を養う 11 集団の書記役となって責任を果たすことに満足を覚える 12 書くべきことを注意深く整える習慣をつける	13 要点の書記をするようになる 14 科学的な物の見方を養っていく 15 研究や記録の取材を教科学習以外に広げていく 16 見出しやまとめ、結論などの要領を覚える
6 自分の体験したことを、まとめて考えるようになる 7 自分の書いたことをもとに、生活を反省するような習慣を身につける 8 生活のすべての点で反省すべき材料のあることを知る	9 頭の中で構想をする習慣をつける 10 いろいろな事件についての自分独自の感想を持つようになる 11 学校外のことにも批判的な目をもって調べるようにする	12 社会の出来事を見て、自分の意見を組み立てることになれてくる 13 自分の考えを記録しておいて、それをまとめてみる 14 生活反省がやや深くなる
5 感受性を豊かにする 6 文を書きかえる、節色する、変化を与えるような仕事を進んでやる	7 自分の好きな書きたいことを、よいことばを選んで書くように心がける 8 独創的な文を作ろうとする 9 取材領域を広める 10 生活経験の印象を鮮明にする	11 生活を豊かにするために、好きな文を創作することを楽しむようになる 12 表現の工夫をいつも心がける 13 暇を利用して好きな文や詩を作ろうとする態度を身につける
1、読みやすいように字形、大きさ、配置などに気をつけて書く 2、漢字の構成、部首をおぼえる 3、漢字は新らしく二百字ぐらいおぼえて書く 4、速く書けるように練習する 5、ケイ紙白紙に文や詩を書く 6、ペンを使って書く 7、小道帳、じぶんの所有品、読んだ本のもくろくを書く 8、標語やポスターなどを書く 9、ローマ字の書きかたをおぼえる 10、学級委員会の記録を書く 11、先生の話の要点をノートする 12、じぶんで発表する意見の要項を書く 13、報告文の骨ぐみをおぼえる 14、接続詞をくふうして文を書く 15、学級新聞の編集に協力する 16、事件やものごとを順よく説明する文を書く 17、対話、会話を文の中に入れて書く 18、研究報告(社会科・理科・自由研究)の書きかたをおぼえる 19、すぐれた作品(文・詩)を味わって読んで感想批評を書く 20、紙しばい、人形しばい、ゲントウなどの脚本を書いてみる 21、学校学級の行事、催しものについて紹介宣伝の文を書く 22、敬体と常体とのあらわしかたをおぼえる	1、漢字は新らしく二百字の書きかたをおぼえる 2、速く書いてもたしかな字を書く 3、練習するじぶんや他人の書きぐせがわかる 4、必要に応じて毛筆や鉛筆も使って書く 5、エンピツやペンを使って一cm平方のマスにはまるように書く 6、掲示、表紙、名札、ポスター案内などを書く 7、読んだ本の要点をノートに書く 8、講話をきいて要点をノートに書く 9、文を書く前に、構想を練る 10、調査見学、研究、訪問などの記録を書く 11、委員会の議事を記録する 12、行事計画、会合などについての説明文を書く 13、本の注文、用事を依頼する、訪問の問合せ、お礼状など用件に応じた手紙を書く 14、電文を書く 15、人事、自然に取材して詩を書く 16、小題目をつけて長文を書く 17、校内放送のシナリオを書く 18、標準語方言を意識して書く 19、文のくみたてを変更したり、むだなところ、だれているところを削除して文をスイコウする。 20、他校のすぐれた作品を読んで長所をたしかめる	1、速く、らくに書くように努める 2、初歩的な行書を書く 3、漢字は新らしく二百字の書きかたをおぼえる。(これまでで教育漢字八八一字を一とおり書けるようにする) 4、欠席届、願書、申込書などの書きかたをおぼえる 5、修飾語を中心に文を分析してみる 6、文集の編集をする 7、作品批評を書く 8、放送、劇、映画の感想を書く 9、会合に参加して、じぶんの意見を効果的に発表する草稿を書く 10、学校新聞の編集に協力する 11、童話ものがたりを書いてみる 12、文章の種類を調べてみる

5	八木清視	1953	○見たこと、聞いたこと、思ったこと、したことを、ありのままに、くわしく思い出して書く ○うそを書かず、すなおに順序正しく書く ○じぶんだけでなく人にもわかるように書く		○だらだらとしていてもよいから、思いきって、くわしく、ぐんぐんと ○つ、どこで、だれが、どうして、どうなったかという、骨組のしっかり ○人には書けないような文じぶんの心だけに、強く感じたことを
6	緒股展弥・西村省吾	1954	自分の行動や身辺のできごとなどについて、簡単な文を書くことができる(生活文) 自分で書いた絵に、簡単な説明をつけることができる(日記) 自分の行動や身辺のできごとなどについて、簡単な文を書くことができる(通信) 感情のこもった短い文を書くことができる(詩) 家庭への伝言など、簡単なメモを書くことができる(覚え書き) 簡単な絵話を書くことができる(物語) (作品をたいせつにする習慣をつける)(編集) 簡単な口頭作文ができる 文字で書くことに興味がわいてくる 順序正しい筋の通った文を書くことができる 文の時の使い分けができる てんや、まるをうつことができる	自分の行動や身辺のできごとなどについて、簡単な文を書くことができる(生活文) 生活を主とした絵日記を書くことができる(日記) 親しい友だちや先生などに簡単な手紙を書くことができる(通信) 簡単な礼状や招待状を書くことができる(通信) 感情のこもった短い文を書くことができる(詩) 身近な生活の記録を主とした簡単な文を書くことができる(記録) 家庭への伝言など、簡単なメモを書くことができる(覚え書き) 簡単な挿話を書くことができる(物語) お互の作文を読みあって楽しむことができる(編集) 簡単な口頭作文ができる 文字で書くことに興味がわいてくる 順序正しい筋の通った文を書くことができる 文の時の使い分けができる てんや、まるをうつことができる	文の組み立てを考えて、段落のはっきりした文を書くことができる(生活文) まとまりのある生活日記を書くことができる(日記) 手紙を書くために、その素材をまとめることができる(通信) 親しい友だちや先生などに簡単な手紙を書くことができる(通信) 児童詩をつくることができる(詩) 読んだ本について、そのあら筋や感想が書ける(感想) 飼育栽培などの長期にわたる記録が書ける(記録) 児童会やクラブ活動に必要な情報を、短い文にまとめることができる(記録) 報告を書くためにその素材をまとめることができる(報告) 見学・調査などの簡単な報告の文が書ける(報告) (要領よく簡潔にまとめさせる)(覚え書き) いろいろな行事についての標語や宣伝・広告の文が書ける(標語提示) 物語を書くことができる(物語) 簡単な紙しばいの台本が書ける(脚本) 自分の作品を整理したり、文集をつくったりすることができる(編集) 自分の作文や人の作文について、評価を始める(編集) 文を詳しくするために、必要なことばを書き加えることができる 文の筋をはっきりさせるために、不必要なことばを削ることができる ことばの正しい使い方の基礎ができる よく推敲することができる 文字のほかの諸記号の使い方がわかる 新しいことばを使用する興味が出てくる
7	教師養成研究所	1955	あいさつのけいこをする。(手紙) 住所と氏名を知らせあう。(報告文) 校内を巡視して気づいたことを話しあう。(感想文) 国を見てその情景を話す。(童話) 学校への往復途上の見聞を話しあう。(生活文) 遠足のときの見聞を話す。(紀行文) 花のなまえを書いたり話したりする。(記録文) 萌ふりの情景を描き、その説明をする。(感想文) 家庭のできごとを話しあう。(生活文) しりとりなどのことば遊びをする。(記録) たなばたのかざりをつくるそうだんをし、できばえを話しあう。(詩・論文) 絵日記をかき、文をかきそえる。(日記) 夏休みの絵日記をみて話しあう。(感想・論文) お客遊びをし、話のやりとりをする。(手紙・脚本) メモを書いてつかう。(記録) 分団でごっこ遊びのそうだんをする。(論文) お友だちのことをかく。(生活文) 運動会の絵を描き、説明をかく。(感想文) 読んで覚えた話をまとめて話す。(童話) 手紙をかき、郵便ごっこをする。(手紙) 遠足の見聞をかく。(紀行文) 話の内容に応じたものまねをする。(脚本) たんじょう会のプログラムをそうだんする。(編集) 正月用にかるたをつくる。(詩・標語) お正月のくらしをかく。(生活文) お使いのときのメモをかく。(記録文) 家庭のできごとをかく。(生活文) 雪ふりの詩や感想文をかく。(詩・感想文) 童話を要約して紙しばいをつくる。(童話) ひなまつりの絵をかいてくわしく説明をつける。(報告) なるべくくわしく家畜・家禽についてかく。(生活文) すきな詩をつくる。(詩) 担任の先生についてかく。(物語)	季節だよりを簡明に書く(記録文) 作文帳の使い方を理解し、有効に使う(記録文) 学校の近所の店を調べて要点をかく(記録文) こどもの目の家庭行事についてかく(生活文) 大掃除を、その進行順にものがたる(物語) 行程に従って、遠足の見聞をかく(紀行文) 絵日記をかき、詩をそえる(詩) むし歯予防の標語をつくり、学校や家庭に掲げる(標語) 学校へ通う喜びや困ることについて書く(感想文) 家の仕事ぶりや家族の人々の動きをかく(感想文) 水遊びの楽しさや、遊びかたなどについてかく(生活文) 夏の情趣に取材して詩をつくる(詩) 夏休みの思い出をかく(生活文) 病気欠席の友だちに見舞の手紙をだす(手紙) 童話のつづきをめいめいで考えてかく(童話) 運動会のようすやおもしろかった演技についてかく(感想文) 学校の近所を巡り、気づいたことをかく(紀行文) 読んだ文の要点をまとめてかく(記録文) 月夜の情景をかく(感想文) とりいれ時の忙しい楽しい生活ぶりをかく(生活文) 病院の仕事や建物を調べる(報告文) お話会にする童話を用意する(童話) 分団に分かれて郵便ごっこをし、手紙をかく(手紙) 年賀状について理解し、書く練習をする(手紙) 絵巻をみて感じたことをもとにして、物語をつくる(物語) たこあげ、はねつきなどについてかく(生活文) いろいろののりものを比較してすきなのをきめる(論文) 一日のできごとをなるべくくわしくかく(日記) おまわりさんのしごとを、まとめてかく(報告) 学芸会の劇の脚本をみんなで話しあってつくる(脚本) 心うたれた話の内容を説明する(報告文) 一年間の作品や成績物をみて、感想をかく(感想文) 学級の文集、個人の文集をつくる(編集)	もっとよい教室にするにはどうしたらよいか意見をかく(論文) かわるがわる学級日記をかくことにし、その書き方について話しあい、書いていく(日記文) 学級園の植物の観察日記をかく(日記・記録文) 身体検査の情景や、結果をもとに感想をまとめる(感想文) 買いもの、のりもの、駅、郵便局など、集団生活についてかく(生活文) 気に入った本について読んだ感想をかく(感想文) 時刻を守り、時間を大切にする標語・論文をかく(論文・標語) ボール遊び中におきた感激の場面をかく 兄弟で仕事をしたら、物のうばい合いをしたりしたことに取材して詩をつくる(詩) くだものをめぐる自分の動きをかく(生活文) 夏休みの計画をかく(記録文) 近くの小高い山に登ったてんまつをかく(紀行文) 話の要点をてみじかにまとめたり、話の要点をくわしく記したりする(記録文) 幻灯や映画をみた所感をかく(感想文) 見学の依頼状、見学した礼状をみんなで相談してつくる(手紙) 壁新聞のつくりかたをくふうする(編集) 家事の手伝いについてかく(生活文) 童話の続きを考えてかく(童話) 分団でつづき話をかく。一節一節かいて次の人に渡す(童話) 学校給食や、学校で昼食をする心持やようすをかく(生活文) 学級のこども会を学校の有志に公開することにし、案内の手紙や掲示文をつくる(手紙・掲示) クリスマスやえびすこうなどの行事についてかく(感想文) 郷土の伝説を集めて伝説集をつくる(物語・編集) しも柱を観察して報告書をかく(報告文) 夏のさものと冬のさものをくらべてちがうところをかく(報告文) ちょっと困ったが、くふうして、のりきったことについてかく(論文) 学芸会の劇の脚本をみんなでつくる(脚本) なるべく遠いところへいったおつかいの経験をかく(紀行文) 長い童話を短くまとめる(童話) 学級の文集、個人の文集をつくる(編集)
8	高野柔蔵	1955	相手 教師 父母 友だち	教師 父母 友だち	教師 父母・友だち 他学級
			通信(1対1) 伝言 手紙 案内状	見舞状 案内状	見舞状 消息状
			記録・報告(1対多) 絵日記 生活日記 学習記録	絵日記 生活日記 観察日記 学習記録	絵日記 生活日記 観察日記 飼育栽培日記 学級日記 学習記録 説明 報告 会議の記録
			通達(1対多) 文集編集	文集編集 プログラム	文集編集 学級新聞 プログラム 掲示
			創作(1対多) 生活記録(生活文) 絵話 詩	生活記録 絵話 詩	生活記録 物語 詩
			取材 1 日常生活 2 身近な人物・事物・事象	1 日常生活 2 身近な人物・事物・事象	1 日常生活 2 社会的な事象・事物
			構想 1 行動の順序にまとめる 2 時間的経過の順序にまとめる	1 行動の順序にまとめる 2 時間的経過の順序にまとめる	1 中心主題を段落にきりこむ 2 事件の展開の順序にまとめる 3 自分の考えで順番をかえる

書いていく かりした文でなかったら、ほんとうに他人にわからずことはでき 書くと、よい文になる	○積極と省略がくべつできるようになる。不必要なことばは、推こうによって、また、長い文が要約できるようになる ○文の構造をたてて書き、中心点をはっきりさせ、味のある文により、人の心をうつようにする ○思ったことは、どしどし書くようにする。じぶんの考えを、文の中にしっかりともつようにする ○植字体と、説明体の区別がわかるようになる	
文の組立を考えて、段落のはっきりした文を書くことができる(生活文) 小見出しをつけて、文を書くことができる(生活文) 多角的に取材して、まとまりのある生活日記を書くことができる(日記) 敬体と常体との使い分けをすることができる(通信) 児童詩をつくることができる(詩) 読んだ本について、そのあら筋や感想が書ける(感想) 飼育栽培などの長期にわたる記録が書ける(記録) 児童会やクラブ活動に必要な情報を、短い文にまとめることができる(記録) 見学・調査などの簡単な報告の文が書ける(報告) ゲームの解説や作業計画などについて、説明の文を書くことができる(覚え書き) (要領よく簡潔にまとめさせる)(覚え書き) いろいろな行事についての標語や宣伝・広告の文が書ける(標語提示) 新しいことばを使用する興味が出てくる(標語提示) 物語を書くことができる(物語) 脚本を書くことができる(脚本) 自分の作品を整理したり、文集をつくったりすることができる(編集) お互の作文を読みあって楽しむことができる(編集) 文を詳しくするために、必要なことばを書き加えることができる 文の筋をはっきりさせるために、不必要なことばを削ることができる ことばの正しい使い方の基礎ができる	一つの文を補記したり、省略したりして、主題のいっそうはっきりした文にすることができる(生活文) 小見出しをつけて、文を書くことができる(生活文) 方言を区別して書くことができる(生活文) 多角的に取材して、まとまりのある生活日記を書くことができる(日記) 注文・依頼・お礼など、いろいろな用件に応じた手紙が書ける(通信) 電文が書ける(通信) 敬語を適切に使って、文を書くことができる(通信) 表現が創造的になってくる(詩) 読んだ本について、そのあら筋や感想が書ける(感想) 調査や研究をまとめて記録の文が書ける(感想) 児童会やクラブ活動などのいろいろな会の、簡単な議事録をつくることができる(記録) 調査や研究をまとめて報告の文が書ける(報告) 書いたり話したりするために、素材を整えて簡単な筋書きをすることができる(覚え書き) いろいろな行事についての標語や宣伝・広告の文が書ける(標語提示) 適切な語を選ぶ能力が高まってくる(標語提示) 物語を書くことができる(物語) 脚本を書くことができる(脚本) 多くの作品を読んで、書く能力を高めることができる(編集) 自分の作品を整理したり、文集をつくったりすることができる(編集) よく推考することができる 文の組み立てを考えて、段落のはっきりした文を書くことができる 敬体と常体との使い分けをすることができる 語いが増大してくる	一つの文を補記したり、省略したりして、主題のいっそうはっきりした文にすることができる(生活文) 自分の生活を反省し、文を書くことによって思索することができる(生活文) 小見出しをつけて、文を書くことができる(生活文) 方言を区別して書くことができる(生活文) 多角的に取材して、まとまりのある生活日記を書くことができる(日記) 注文・依頼・お礼など、いろいろな用件に応じた手紙が書ける(通信) 電文が書ける(通信) 敬語を適切に使って、文を書くことができる(通信) 表現が創造的になってくる(詩) 読んだ本について紹介・鑑賞・批評の文を書くことができる(感想) 映画・演劇・放送などについて、感想や意見を書くことができる(感想) 学校の内外の諸活動に必要なきまりを書くことができる(記録) 調査や研究をまとめて記録の文が書ける(記録) 児童会やクラブ活動などのいろいろな会の、簡単な議事録をつくることができる(記録) 調査や研究をまとめて報告の文が書ける(報告) 自分の意見を効果的に発言するために、原稿を書くことができる(覚え書き) 書いたり話したりするために、素材を整えて簡単な筋書きをすることができる(覚え書き) 学校の内外の諸活動に必要なきまりを書くことができる(標語提示) 物語を書くことができる(物語) 脚本を書くことができる(脚本) 学校新聞を編集することができる(編集) 多くの作品を読んで、書く能力を高めることができる よく推考することができる 語いが増大してくる
掲示して記事を集め、まず新聞らしいものを作ってみる(編集・掲示) 目的に応じて必要部分を書きぬく(記録) 整った読書記録をかきはじめる(記録) 庭や道ばたの草花に取材して詩を作る(詩) 見学の申込みお礼の手紙をかき、見学の報告をかく(手紙・報告) 自分の目あて、学級の目あての標語をつくる(標語) かいこや、かや、はえの飼育日記をかき、まとめて報告する(日記・報告) 日曜日一日の生活を日記体でくわしく書く(日記) おかしくて大笑いした経験を題に物語をかく(物語) 苦しみ、なやみをあげ、その排除をはかる(生活文) 毎日の天気の記録をとり、日時と気温の関係をしらべて報告する(記録・報告) 虫とりに苦心し、興じた情況をかく(生活文) 他人の争いについて批判する(論文) 調べたいことがらについて、他校の同学年生に問い合わせの手紙を出す(手紙) 名詞・数量など忘れやすい事項の覚え書き(記録) 自分たちの演技の要領、番組などをあらかじめ知らせる手紙をかく(手紙) 他人の経験をきき、そのつづき話をつくる(童話) ハイキングについて書く(紀行文) 自分に対し、学級に対し、こうありたいという担任の先生への希望事項をかく(感想文) 年賀状の目的を理解し、その練習をする(手紙) 雑誌をよんで、内容のすききらいをのべる(論文) 休みの時間の情景を描写し、感想をかく(感想文) 冬眠の様子を調べてかく(報告文) 玩具を擬人化して童話にする(童話) さきに作った童話をもとに脚色する(脚本) お節句に招く手紙をかく(手紙) 一年間の作文を整理し、類別する(編集)	各種委員活動の記録のより方を定め、記録していく(記録) これまでの作文帳を自己評価し、一そう役にたつように書く(記録) こどもの日の意義を考え、覚悟をのべる(感想文) 一家殺出の活気にみちた生活ぶりをかく(日記文・生活文) 動物と植物、植物と植物の相互関係を調べてかく(報告文) これまでの学級新聞を批判し、改良していく(編集) 放送委員に意見をのべ、資料を提供する(編集・脚本) ぼんをめぐる家庭行事をかく(生活文) 研究発表の原稿をつくる(論文・報告文) 夏休みの作品を資料にして、手紙文・紀行文の書き方を研究する(手紙文・紀行文) あらしの強さを時情表現する(詩) 新聞記事を資料に伝染病対策をのべる(論文) 自分の参加した運動競技を中心にスポーツの秋をかく(生活文) まとまりに気をつけてつづき話をする(童話) 読んだ本を手みじかに紹介する(報告文) 作品をみるにつけての掲示をかき、展覧会全体について感想をかく(感想文) 防火の標語・論文を書き、消防署へおくる(標語・論文) 共通語と方言を対照して表をつくり、傾向をまとめる(記録文) 三学期の委員選挙のまえに理想選挙について意見をのべる(論文) 大雪をめぐる生活をかく(生活文) 分団ごとに雑誌をつくる。そして回覧する(編集) 学芸会用の脚本コンクールをする(脚本) すきなものを一つあげ、その理由、感想を簡潔に書き、つぎつぎと書き進める(感想文) 郷土の開拓に努めた人、郷土出身の成功者を物語る(物語)	将来の進路と、それに対する心構え、出発点をかく(論文) 見出しの書き方、読者の程度を考えて、学校新聞をつくる(編集) 母の日にちなみ、母の愛情、母への感謝を詩の形で表現する(詩) 修学旅行の見聞をくわしく書く(紀行文) 短い文で、やさしくわかりやすく、学校内や近所のできごとを書く(報告文) 伝記をよみ、偉人の少年時代だけを簡明にまとめる(報告文) 昆虫の生活を観察し、擬人化して、物語とする(物語) 働く人のたくましさをたたえる(感想文) 心情の動きを書きとめていく(日記) 自分の長所、短所を率直にかく(論文) 人々相互の関係を調べ、考えて書く。問題生から、世の中全体に及ぶ(報告文) 自分の分担のしごとをふくめて、運動会のようすをかく(感想文) 図書委員に協力し、読書の掲示・標語をつくる(掲示、標語) 自分が風になって、いろいろ失敗し成功したものがたりをかく(物語) 機械の性能、構造を調べて記録する(記録文) すきな音楽、きらいな音楽について感想をかく(感想文) このごろのビッグニュースについての感想をのべる(感想文) 知人をモデルにして物語をかく(物語) 冒けん、実験、仕事、調査、兄弟関係など、研究上、生活上の苦心談を客観的にかく(報告文) スキー・スケートなどにつき、往復途上の見聞とともにかく(紀行文) 文集の印刷・写真撮影など注文の手紙を作る(手紙) 卒業に際しての所感を表現する(詩、感想文) 謝恩会用のげきの脚本をかく(脚本) そうてい、内容ともに十分注意してりっぱな記念文集をつくる(編集)
教師 父母・友だち 知人	教師・父母 友だち・他学級 P・T・A	教師・父母 友だち・他学校 P・T・A
見舞・消息状 礼状	見舞・消息 問合わせ状・電報	見舞・消息・礼状 注文・問合わせ状
生活日記 飼育栽培日記 学級日記 学習記録 説明 報告 会議の記録	生活日記 飼育栽培日記 学級日記 クラブ日記 学習記録 説明 報告 会議の記録	生活日記 飼育栽培日記 学級日記 クラブ日記 学習記録 説明 報告 会議の記録
文集編集 学級新聞 プログラム 掲示 評語	文集編集 学級新聞 プログラム 掲示 評語 書評 紹介	文集編集 学校新聞 プログラム 掲示 評語 書評 紹介
生活記録 物語 詩	生活記録 物語 詩	生活記録 物語 詩
1　日常生活 2　社会的な事象・事物	1　日常生活 2　社会的事象 3　内面的事象	1　日常生活 2　社会的事象 3　内面的事象
1　中心主題を段落にまとめる 2　事件の展開の順序にまとめる 3　論理的思考によりまとめる	1　中心主題を段落にまとめる 2　事件の展開の順序にまとめる 3　論理的思考によりまとめる	1　中心主題を段落にまとめる 2　事件の展開の順序にまとめる 3　論理的思考によりまとめる

			叙述 1　自分のことばで書く 2　文字を正しく書く 3　句読点をつける 4　主語述語のはっきりした文で書く	1　自分のことばで書く 2　文字を正しく書く 3　表記法を正しくする 4　接続詞の使い方	1　自分のことばで書く 2　文字を正しく書く 3　表記法を正しくする 4　修飾語の使い方
9	大原輝男	1957		(1)　詩を読みましょう (2)　え日記を書きましょう (3)　季節だよりを書きましょう (4)　見学の文を書きましょう (5)　心に思っていることをだいせつに書きましょう (6)　一つ一つ思い出して書きましょう	(1)　詩を読みましょう (2)　手紙を書きましょう (3)　かんさつ文を書きましょう (4)　日記を書きましょう (5)　見学、研究の文を まとめましょう (6)　だれをめあてに作文を書くか考えましょう (7)　文のすじがはっきりするように考えましょう (8)　心に思っていることを大切にかきましょう
10	文部省	1958	ア　書こうとする気持を養うこと。 イ　何を賞おうとしているかがわかるように書くこと。 ウ　文字の形に注意し、筆順に従って書くこと。	ア　進んで書こうとすること。 イ　知らせたいことが相手にわかるように書くこと。 ウ　でき ごとの順序をたどって書くこと。 エ　書いたものを読み直すこと。 オ　文字の形や筆順に注意して正しく書くこと。	ア　書こうとするものをよく見て書くこと。 イ　書こうとすることがらをはっきりさせてから書くこと。 ウ　かなり長い文章を書くこと。 エ　必要に応じて継続して書くこと。 オ　大事なことを落さずに書くこと。 カ　文字の組立方の基本に注意して、形を整えて書くこと。
11	佐古田好一	1960	1　書くことに興味を持つようにする 2　言いたいことを文章に書くことができるようにする	1　進んで文章を書こうとする態度を育てる 2　訴えたいことや知らせたいことを文章に書くことができるようにする	1　かなり長い文章を書くことができるようにする 2　自分の考えや感じを文章に書こうとする態度を育てる
12	大阪綴方の会	1961	・一つのことを一つの単位文にかく ・…は…しました。…が…いいました。と主語・述語がきちんと照合しているかきかた ・「そして」「それから」が正しくつかえる ・「ので」「から」が正しくつかえる ・…しました。と…です。…しました。…しています。などのかきかたがわかる ・ある日、ある時のことと、いつもあることを混同しないかきかた ・「何がなんだ」「何がどうだ」「何がどうした」の単位文が正しくかける	・「そして」「それから」「それで」「すると」が正しくつかえる ・「、」や「。」が正しくつけられる ・会話も入れて、その時のようすがわかるようにかくかき方 ・文章が羅列的にならないように、はじめ、なか、おわりをきめてかくかき方 ・ある日、ある時のことと、いつもあることを混同しないかき方 ・でてくる事物を一つ一つ説明したり描写したりしていくかき方	・共通語でかけるようにしていく ・常体でもかけるようにしていく ・したこと、聞いたこと、見たこと、考えたことの区別がはっきりかける ・人にきいたり、本で読んだりしたことと、自分が見たり聞いたりしたことを区別してかくかき方――といっていました。…だそうです。など ・でてくる事物を一つ一つていねいに説明したり描写したりするかき方
13	文部省	1968	ア　書くことに興味をもつこと。 イ　書く事がらを見つけること。 ウ　聞いたり読んだりしたとおりに、やさしい語や文を正しく書くこと。 エ　経験したことなどの順序をたどって書くこと。 オ　事がらを考えながら、語と語とを続けて簡単な文を作ったり、文と文とを続けて簡単な文章を書いたりすること。 カ　文章を書くために必要な文字や語句を身につけるようにすること。 キ　書いた文や文章を読み返す習慣をつけること。	ア　進んで文章を書こうとすること。 イ　何が最も書きたいかを考え、そのなかで書く事がらを見つけて書くこと。 ウ　聞いたり読んだりしたとおりに、文や文章を正しく書くこと。 エ　できごとの順序をたどって書くこと。 オ　内容がよくわかるように、文と文との続き方を考えて文章を書くこと。 カ　文章を書くために必要な文字や語句を増すこと。 キ　書いた文章を読み返して、まちがいなどに気づくこと。	ア　文章で表現することに意欲をもち、また、かなり長い文章をも書こうとすること。 イ　書く必要のあることを整理して書くこと。 ウ　書こうとするものをよく見て書くこと。 エ　大事なことを落とさずに書くこと。 オ　書く事がらごとにくぎりをつけて文章を書くこと。 カ　語と語との続き方に注意して文を整えて書いたり、文と文との続き方を考えて文章を書いたりすること。 キ　文章を書くために必要な語句を増し、また、正しく文章のなかで使うこと。 ク　書いた文章を読み返して、まちがいなどを正すこと。
14	東京八剛作文の会	1963	1　自分の生活経験をありのままに話す力をつける 2　自分の生活経験を文字化し文章に表現する力をつける 3　物事をありのままにとらえて文章に表現する力をつける 4　過去のできごとを時間的順序をおさえて表現する力をつける 5　書くことがらを意識してくわしく表現する力をつける 6　ひとつのことをありのままに思いきって書く力をつける 7　相手によくわかるような文章を書く力をつける 8　相手に自分の考えをなっとくしてもらえるような文章を書く力をつける 9　みんなのことを意識して文章表現する力をつける	1　対象をよく観察して表現する力をつける 2　生活経験のなかからひとつのものをまとまったものとして表現する力をつける 3　過去のことをよく思いだしてくわしく書く力をつける 4　過去のことを展開的表現でくわしく書く力をつける 5　自分の心の動きや考えがはっきりわかるような文章を書く力をつける 6　やや長い間のことをまとめて総合的に書く力をつける 7　継続的な観察をもとにして説明風に書く力をつける 8　相手を意識してすじのとおった文章を書く力をつける 9　集団生活のなかで自分の位置を意識してかく力をつける 10　新しくわかったことをおりこんで物語風に書く力をつける 11　他人に呼びかけるような文章を書く力をつける 12　間接経験をもとに、自分の考えや感情を説明風に書く力をつける	1　現在形の文章を書く力をつける 2　文章の構成を意識して過去のできごとを展開的過去形で書く力をつける 3　事物の動きが目の前にみえるように描写して書く力をつける 4　過去形表現のなかへ説明形表現をおりまぜて書く力をつける 5　長い間の経験をまとめて総合的説明形表現で書く力をつける 6　総合的説明形表現のなかへ過去形描写風な表現をおりまぜて書く力をつける 7　具体的事実を抽象して説明風な表現をする力をつける 8　間接経験をもとに説明的表現で書く力をつける 9　集団にむかって訴えの文章を書く力をつける 10　新しく経験したことをもとに説明風の書き方をする力をつける
15	静岡・沼津作文の会	1963	1　個と学級の解放からはじめ、どんなことでも話し合える学級、ひとりひとりがだいせつにされる学級、助け合いながら、みんながよくなる学級づくりをめざしていく。 　気がるに話せるふんいきをつくる。らくな気持で話せるようにするとともに、話こととばの概念づけをする。 2　自分のしたことを事実に即して絵にかいて、その話をかくしごとをとおして、文字ことばで表現することへの興味を育てる。 　絵をかくことによって、ひとまとまりの話(題材)を把握する力を養う。 　話こととばから書きことばへの移行をする。 3「あのね、先生…」「おかあさんわたしね…」というように、話すような形体でかくことによって、気軽にかけるようにする。 　ひとりひとりの障害をとりのぞき、書く喜びを味あわせ、書くことに興味をもたせる。いいたいことを文字で表現する喜びをもたせていく。 4　ほんとうにあったこと、したことならどんなことを書いてもいいのだということをわからせ、事実について書く態度を育てる。 　まとまりのある文章をかくのを徐々につけていく。 　しだいに文章化する力を養う。 　物ごとを見る目を徐々に育てていくようにする。 5「ひとつだけのこと」について書くことを強調し、具体的に題材のとらえ方を指導し、きどらず、あったとおりに書くように導く。 　書く意識をはっきりもたせ、書くことがらをあったとおりに順序よく思いだして、しだいにくわしく書けるようにする。思ったことも すなおに表現できるようにする。	6　書く対象を見ながら文字で写生したり、いろいろな音や声を文字で書きとったり、見たり、聞いたりしたことを、自分の目で見、耳で聞き、心に感じたとおりに表現する力を育てる。 　細かによく見る目、確かに聞きとる耳、すなおに感じとる心と、疑問をもったり、想像したりする力を育てていく。 7　行動の順序、事件の経過を追って、よく思いだしながら、くわしく書く力を養う。 　自分の経験を、ひとつのまとまったものとしてつかんで表現する力を養う。 　書く前に題をきめ、どこから書きだしてどこまでかく か、はっきりさせてから時間的な経過をおって書かせる。 8　会話のうつし方、「」を使って地の文と別行にかくことをわからせる。 　会話を入れてかくことをとくに指導し、会話を入れてかくことによって、生き生きとした文章をつづる力を養う。 　書く対象をよく見、こまかに観察して、くわしくかく力を育てる。 9　かたよらないで、いろいろな題材を選んでかくようにさせることと、題材を見つける目をひらげるように指導する。 　日常のくあたりまえなできごとにもよく目を向けさせるとともに、多面的に取材してかかせることにもちろん、とくに書きたいことがらを選んで、力を入れてかいていくようにさせる 10　ことがらのまとまりを考えて、読み手によくわかるようにかく力を養う。書くことがらについては、よく思いだし、くわしく展開ふうにかいていく力を養う。 　自分の言いたいこと、知らせたいこと、思っていることなどを、はっきりかくことによって、物事を確かに見つめさせ、考えるように導く。	11　書こうとすることがらをありのままに確かにとらえ、だいじなことがらをおとさずに、くわしく表現する力を養う。 　書く前に書くことがらをはっきりさせ、書く範囲を決めて、あったとおりに、きどらず、すなおに書くように導く。 　ひとつのことがらを、目の前に見ながら話していくように表現する力を養う。 12　具体的な生活事実に、自分の心持や考えを入れて書いたり、心情や考えを中心にひとまとまりの文章をかく力を養う。 　生活のさまざまな事象、事件のなかから、自分の心情、考えをたかめる問題をとらえる力を養い、書くしごとや共同研究などのしごとをとおして、物の見方・考え方・感じ方を確かに育てていく。 13　書こうとする事象、事件について、書く前にかこうとすることがらをはっきりさせ、こまかに思いだして順序よく、くわしくつづる力をのばす。 　どこをどのようにくわしく書き、ひとまとまりの文章にまとめるのか具体的にわかりさせる。表現をとおして生活について考える態度を育てていく。 14　自分の考え、感じをだいじにし、それをありのままに表現させることによって個と集団の物の見方・考え方・感じ方を確かめあい、その質を高めていく。 　想像力をはたらかして書く力を育てる。 　間接経験を、自分のイメージあるいは知識として、伝達する形でかく力を育てていく。 15　長かける題材をとらえ、中心となることがらをはっきりさせ、順序よく、くわしく、長く書く力を育てる。 　段落意識を育て、すじのとおった文章をかく力を養う。内容に即した形形体でかく力をのばす。 物ごとをよく見つめ、すじみちたてて考える力を育てていく。
16	石田佐久馬	1964	①書くことに興味をもつようにする ②文章を書くために必要な文字や語句を身につけるようにする ③言いたいことを文章に書くことができるようにする	①進んで書こうとする態度を育てる ②文章を書くために必要な文字や語句を確実に身につけるようにする ③訴えたいことや知らせたいことを文章に書くことができるようにする	①かなり長い文章を書くことができるようにする ②文章を書くために必要な文字や語句をいっそう確実に身につけるようにする ③自分の考えや感じを文章に書こうとする態度を育てる
			文章構成技能 (一)　センテンスの技能 (1)文の主語、述語などの欠けている部分を補う技能 (2)中核となる文に修飾語などを補って、複雑化する技能 (3)一つの文を二つにしたり、二つの文を一つにまとめたりする技能		(1)文の主語、述語などの欠けている部分を補う技能 (2)中核となる文に修飾語などを補って、複雑化する技能 (3)一つの文を二つにしたり、二つの文を一つにまとめたりする技能 (4)単文、重文、複文を区別する技能

1　自分のことばで書く 2　文字を正しく書く 3　表記法を正しくする 4　修飾語の使い方	1　共通語で書く 2　敬語の使い方 3　創造的表現とする	1　共通語で書く 2　敬語の使い方 3　創造的表現とする
(1)　詩を読みましょう (2)　観察文を書きましょう (3)　感想文を書きましょう (4)　詩を作りましょう (5)　手紙を書きましょう (6)　文のなかみを豊にしましょう (7)　文のはこびを考えましょう (8)　日記を書きましょう	(1)　詩を作りましょう (2)　研究をまとめましょう (3)　創作文を書きましょう (4)　日記を書きましょう (5)　観察、記録をまとめましょう (6)　自分の考えを大切に書きましょう (7)　あじのある文を書きましょう (8)　主題がはっきりするように考えましょう (9)　ようすをそのまま書くところと、説明をつけくわえるところを考えて書きましょう (10)　中心点をはっきりして、人の心をうつように書きましょう	(1)　詩を作りましょう (2)　旅行記をまとめましょう (3)　まとまった日記文を書きましょう (4)　文の研究をしましょう (5)　手紙を書きましょう (6)　私たちの生活をみんなで考えよう (7)　童話を読みましょう
ア　書こうとすることがらをまとめてから書くこと。 イ　段落を考えて書くこと。 ウ　中心点をおさえて書くこと。 エ　文字の大きさや配列に気をつけて書くこと。 オ　横書きに慣れること。	ア　主旨のはっきりした文章を書くこと。 イ　必要に応じて文章を詳しく書いたり簡単に書いたりすること。 ウ　段落のはっきりした文章を書くこと。 エ　すいこうすること。 オ　書かれた文字の形、大きさ、配列などのよしあしを見分けること。 カ　書式に従って書くことに慣れること。	ア　目的に応じた書き方を考えること。 イ　効果的に表現しようとすること。 ウ　材料を整えて書くこと。 エ　書くことによって自分の考えを深めること。 オ　文字の点画が乱れないように注意して正しく速く書くこと。
1　ある程度整った文章を書くことができるようになる 2　文章を書く意欲を高め、目的をはっきりさせて書くことができる	1　文章を書く技能を伸ばし、かなり自由に書くことができるようにする 2　文、文章の組み立てや、語句の使い方に注意して書くことができるようにする 3　文章を書く必要性を意識し、それに応ずることができるようにする	1　書くことを身につけて、生活に役立てることができるようにする 2　文章の組み立てや、語句の使い方についてくふうするようにする 3　目的に応じていろいろな文章を書くことができるようにする
・共通語でかける ・常体でもかけるようにする ・事実と考えを文としてきちんと区別してかきわける ・「そして」「それから」「それで」「すると」「だから」「しかし」「けれども」が正しくつかえる ・描写風のかき方と説明風なかき方とわかる ・1、2、3、4、と分けてかいたり、小見出しをつけてかくかき方、段落のはっきりしたかき方	・説明文と描写文がかきわけられる。展開的記述と総合的記述ができる。精叙と略叙ができる。そして文章をまとめるかき方 ・段落や行分けがうまくできる ・自分のとくに気持や感情を、具体的な行為を描くことによって表現するかき方 ・事実と意見とを区別してかくかき方 ・「だ、である」体が正しくつかえること ・いくつかの項目に分けてかくかき方 ・結論をはじめにかいて、つぎにそれの論拠を出すかき方、また、その逆のかき方	・なにをかくかを文章のはじめにはしがきのようにかいてから本文の記述にはいるかき方 ・文章のながれのなかで、よくあったことばでかくかき方
ア　自分の考えをはっきりさせて文章に書き表わそうとすること。 イ　書く必要のあることを整理してから書く習慣をつけること。 ウ　事象を客観的に文章に書き表わすこと。 エ　書こうとすることの中心が明確になるように書くこと。 オ　段落を考えて書き、また、段落と段落との続き方にも注意して書くこと。 カ　文章を書くために必要な語句を増し、また、適切に文章のなかで使うこと。 キ　文章を書くときの辞書の利用のしかたがわかること。 ク　書いた文章を読み返して、まちがいを正したり、いっそうよい文章に書き改めたりすること。	ア　書くことによって自分の考えをはっきりさせること。 イ　必要な事がらを観点ごとに整理して文章を書き、生活や学習に役だてるようにすること。 ウ　主題や要旨の明確な文章を書くこと。 エ　段落のはっきりした文章を書き、また、段落と段落との関係がわかる文章を書くこと。 オ　文や文章の組み立てや語句の使に方に注意して書くこと。 カ　文章を書くときに辞書を利用しようとすること。 キ　書いた文章を読み返して、叙述のしかたについていっそうくふうしてみること。	ア　文章を書くことによって自分の考えを深めること。 イ　必要な事がらを落とさずに文章に書き、生活や学習に役だてること。 ウ　書く目的によってそなえるべき要件を知り、それらを落とさずに書くこと。 エ　必要に応じて文章を簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 オ　文や文章の組み立てや語句の使い方についてくふうすること。 カ　文章を書くときに辞書を利用すること。 キ　書いた文章を読み返して、より効果的な叙述のしかたについてくふうすること。
1　現在進行形のかたちでくわしく書くカをつける 2　現在形表現のなかへ説明風の書き方をおりまぜていく書くカをつける 3　自分の考えがはっきりでてくるような文章を書くカをつける 4　文章の構成をきめてくわしく描写して書くカをつける 5　長い間の経験をまとめて総合的に書くカをつける 6　主題にしたがって描写風な表現で書くカをつける 7　記録を説明風に書くカをつける 8　間接経験をもとにやや概括的に書くカをつける 9　集団のひとりとしての立場で集団のことを書くカをつける 10　新しくえた知識や経験をもとに説明風に書くカをつける 11　疑問や矛盾に思っていることを具体的事実をあげて書くカをつける 12　ひとつの主題をえらんで主張するように書くカをつける	1　現在形の表現で書くカをつける 2　主題にそって描写風に書くカをつける 3　自分の感じや考えを事実の描写によってあらわしていくように書くカをつける 4　描写風な表現に説明形表現をおりこんで、書くカをつける 5　長い間の経験を総合的説明形表現で書くカをつける 6　概括的表現のなかへ適当に過去形描写風な表現で書くカをつける 7　記録風な文章を書くカをつける 8　間接経験をもとに概括的表現をする力をつける 9　個人の立場でなく集団の立場にたって文章を書くカをつける 10　展開的過去形描写風の文章をかくカをつける 11　社会的視野にたって、ものごとを詳檢風に書くカをつける 12　自分の主張等を現在形表現によって書くカをつける	1　現在形表現でかくカをつける 2　展開的過去形表現のなかへ現在形表現を意識していれて書くカをつける 3　表現の効果を考えて描写風に書くカをつける 4　展開的過去形表現のなかへ説明形表現をいれて書くカをつける 5　長い間の経験を総合的説明形表現で書くカをつける 6　総合的概括的表現で書くカをつける 7　抽象したり要約したりして概括的に書くカをつける 8　間接経験をもとに概括的に書くカをつける 9　引用などをしながら総合的説明形表現をするカをつける 10　長編のための構成を考えてさまざまな表現形体を用いて書くカをつける 11　集団の立場で自分の主観をおさえて書くカをつける 12　展開的現在形表現で書くカをつける
16　自分がとりたてて書きたいこと(主張、訴え、知らせ、叫びなど)を選び、なにを、だれに向かって、何のために書くのか考えて、読み手にはっきりわかるようにかく。 学級のみんなによびかける文章をかき、ひとりの問題をみんなの問題として、集団のなかで解決していく力、態度を育てていく。 17　思考、主張の中心、感動の焦点をとらえて、文章のヤマをもりあげ、生き生きとした表現をする力を養う。 自分の判断、考え方を基礎づける能力、論理の正しさや誤りを明確にし、結論づけていく力を育てる。 集団としての考えをもたせるとともに、集団のなかで自己を確立させていく。 18　文脈をとおし、文章全体の構造にすじみちをとおしてかく力を養う。 書くことの中心をはっきりさせ、そのことの原因、経過と結果のつながりがわかるように構想をねって書くカを養う。 物ごとを分析し、総合し、すじみちたてて考える力を養う。文章表現の目的性をしだいに自覚させていく。 19　書く前に文章の組みたてについて考えて構想カードにかき、それをもとに文章をかく。この場合、はじめ1、2…なか1、2…おわり1、2…とかいたひとつひとつの項目が段落になるようにする。 中心にふれるところをくわしくかき、その他のところは簡略にかいたり、省略してかけるようになるよう指導していく。 20　ただ長文を書くというのでなく、よい題材を選んで、長さに比例して内容が充実した文章をかくカをのばす。 接続語を正しく使ってかくことによって、文・文章意識を確かなものに育てるとともに、長文をだれずにかきとおせるようにする。	21　はっきりした問題意識をもって題を選び、書く前に書こうとするねらいをはっきりさせ、書くねらいが生かされている形式を考え、文章のくみたてをくふうしてかく力を養う。 表現活動をとおして、物の見方・考え方・感じ方・行動のしかたを確かなものに育てていく。 22　中心となることがらや考えをはっきりさせ、ねらいに即して構想をねってかくカをのばす。 書きながら、いつも主題を意識させ、精叙・略叙するところ、省略することがらを考えてかき、文章の中心をもりあげ、自己の主張・思想・感動をはっきりと表現する力を養う。 23　問題意識を育て、いつでも作文の題材をゆたかにもたせるように導く。 かたよらないで、いろいろな題材をとりあげてかかせるようにし、しだいにねうちのある題材に向かわせるように導く。 生活に即し、個性に即した題材を選んでかくことによって、個と集団の生活姿勢を正していく。 24　常に新しくゆれ動く社会を見つめ、新しい事実、現象、事件をとりあげて、すでに持っている知識にもとづいて、自分で考え、解明してかく力を養う。 表現活動をとおして、個と集団の問題につかみ方、考え方を質的に高める。個々の理論を確立し、それを集団のなかで確かめあい主体性・集団性を伸長していく。 25　常に新しくゆれ動く社会を見つめ、新しい事実、現象、事件をとりあげて、すでに持っている知識にもとづいて、自分で考え、解明してかく力を養う。 表現活動を通して、個と集団の問題のつかみ方、考え方を質的に高める。個々の理論を確立し、それを集団のなかで確かめあい、主体性、集団性を伸長していく。	26　事実を具体的にありのままにつかまえ、それを観く見つめ考える態度を養う。 さまざまな事象の矛盾に気づかせ、自分で判断し、考え、意見を整理し、すじみちたてて表現させ、表現をとおして集団のなかで確かめ追求していくカをのばす。 新しく学んだ知識を事実とでりあわせて表現する力と、論理性を養う。 27　主題に即して、いろいろな資料を集め、調査し、それを素材化し、意見を整理してまとまった文章をかくカを養う。 資料の種類と集めかた、調べかた、整理のしかた、生かしかた、文章表現のしかたを具体的に理解させ、身につけさせる。 科学的態度で事物を分析的に見て、文章表現する力を養う。 28　書こうとするねらいを生かし、主題をもっとも効果的に表現できるような文章の組みたてを考え、もっとも適切なコトバを選び、創造的に表現する力を育てる。 作者の思想・感情・意志が読みてにそくそくと伝わる文章、ねがい、主張が明確に伝わる文章、感動させる文章をかくカをのばす。 29　問題意識をもって題材を選んで書いていきながら、なにをこそ書いたらよいのか、どんな題が、ねうちのある題なのか理解させる。 自分たちが築きあげる社会のために、考えなくてはならない問題、究限していかなくてはならない問題などをつかんでかく力と態度を育てる。 30　家庭・学校・社会・自然の生活をよく見つめ、事実をありのままにつづり、現実の問題について考え、真実を追究する態度を育てる。 これまでの経験的な認識感性的な認識を、理性的・科学的な認識まで高めるようにし、人間生活を前進させる物の見方・考え方・感じ方・行動のし方を育てる。
①ある程度整った文章を書くことができるようにする ②文章を書くために必要な文字や語句を増すようにする ③文章を書く意欲を高め目的をはっきりさせて書くことができるようにする	①文章を書く技能を伸ばし、かなり自由に書くことができるようにする ②文、文章の組立や語句の使い方に注意して書くことができるようにする ③文章を書く必要性を意識し、それに応ずることができるようにする	①書くことを身につけて生活に役だてることができるようにする ②文章の組立や語句の使い方についてくふうするようにする ③目的に応じていろいろな文章を書くことができるようにする
	(5)センテンスの主語を変えたり、能動を受動にしたりの、転形(変形)の技能 (6)だらだらしたセンテンスを、よりりきしまった形になおす技能 (7)あいまいなセンテンスを見いだして修正する技能 (8)単調なセンテンスの連続を破る技能	

17	奥水寀	1968	(二) 段落の技能 (1) 段落と段落でないただの文の連続とを区別する技能 (2) 文章がいくつかの段落(印刷上の段落)に分かれているかに気をつける技能 (3) ある事項が何番目の段落に出ているかを見いだす技能		(3) ある事項が何番目の段落に出ているかを見いだす技能 (4) 段落の話題文の技能
			(三) 文章展開の技能 (1) 文章の時間的展開の技能 (2) 文章の場所的な展開の技能 (3) 文章の事件的な展開の技能 (4) 文章の展開を「はじめ」「なか」「おわり」で区切る技能		(1) 文章の時間的展開の技能 (2) 文章の場所的な展開の技能 (3) 文章の事件的な展開の技能 (4) 文章の展開を「はじめ」「なか」「おわり」で区切る技能 (5) 問題の提示とその解決という展開の技能
			(四) 取材の技能 (1) ある課題に対してどういうことが自分に書きやすいことであるかをきめる技能 (2) 経験したことの中で大事なこと、価値あることをメモしておく技能		(3) ある課題に対して、どちらのほうがよい取材であるかを判別する技能 (4) いくつかのメモの中から、ある課題に対して適しているものをきめる技能
			(五) 構想の技能 (1) ある話題に対して関連のあることを思い出す技能—関連のあるものと関連のないものとを区別する技能 (2) ある話題の下位項目の順序の技能—項目の順序としてどれがよいかをきめる技能		(3) 話題の下位項目の不適切なものを取り除く技能 (4) 話題の下位項目の欠けているのを補う技能
			作文技能 (一) 基本文章型の技能 (1) できごとの文および文章の基本型の技能		(2) ようすの文および文章の基本型の技能 (3) 説明の文および文章の基本型の技能
			(二) 創作の技能 (1) 絵を見て文を書く技能 (5) ある事がらについて、自分がほんとうに思ったことを書く技能		(2) 物語の続きを書く技能 (5) ある事がらについて、自分がほんとうに思ったことを書く技能 (6) 何かを短いことばで書く技能
			(三) 手紙の技能 (1) 書式にしたがって書く技能 (2) 相手への尊敬や善意、礼儀正しさを示す技能		(1) 書式にしたがって書く技能 (2) 相手への尊敬や善意、礼儀正しさを示す技能
			(四) 記録・報告の技能 (1) 正確に書く技能 (2) 余計なことは書かない技能		(1) 正確に書く技能 (2) 余計なことは書かない技能 (3) あいまいさを避ける技能
			(五) 生活文の技能 (1) 自分の経験したことを選んで書く技能 (2) 題目からはずれないように書く技能 (3) 順序よく書く技能		(3) 順序よく書く技能 (4) 具体的に書く技能 (5) ありのままに書き技能 (6) 会話などを入れて書く技能
18	文部省	1977	ア 文章に書くための事柄を考えたり見付けたりすること。 イ 見聞した事、経験した事などについて順序をたどって書くこと。 ウ 事柄を考えながら、語と語とを続けて簡単な文を作ったり、文と文とを続けて簡単な文章を書いたりすること。 エ 自分の書いた文や文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いなどに注意すること。 オ 正しく視写したり聴写したりすること。 カ 経験した事の順序どおりに話すこと。	ア 書きたいと思う題材について必要な事柄を選ぶこと。 イ 事柄の順序を整理して書いたり話したりすること。 ウ 事柄が読み手によく理解できるように、文と文との続き方を考えて文章を書くこと。 エ 自分の書いた文章を読み返して、間違いなどを正そうとする習慣をつけること。 オ 正しく視写したり聴写したりすること。 カ 経験した事の順序どおりに話すこと。	ア 文章に書く必要のある事柄を選び、それらを整理して書くようにすること。 イ 内容を分かりやすくするため、書く事柄ごとの区切りや中心を考えて書いたり、話の要点を考えて話したりすること。 ウ 書こうとするものをよく観察した上で書くこと。 エ 内容が読み手によく理解できるように、語と語との続き方に注意して文を整えたり、文と文との続き方を考えて文章を書いたりすること。 オ 語句の意味や役割を考えて、それを正しく文章の中で使うこと。 カ 自分の書いた文章を読み返して、間違いなどを正すこと。 キ 正しく視写したり聴写したりすること。 ク 聞いたり読んだりした内容から、文章に書く素材を見付け出して書こうとすること。 ケ 筋道をはっきりさせて話すこと。
19	波川柴志	1979	文章に書くための事柄を考えたり見付けたりすること。 見聞した事、経験した事などについて順序をたどって書くこと。 事柄を考えながら、語と語とを続けて簡単な文を作ったり、文と文とを続けて簡単な文章を書いたりすること。 自分の書いた文や文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いなどに注意すること。 正しく視写したり聴写したりすること。 経験した事の順序どおりに話すこと。	書きたいと思う題材について必要な事柄を選ぶこと。 事柄の順序を整理して書いたり話したりすること。 事柄が読み手によく理解できるように、文と文との続き方を考えて文章を書くこと。	文章に書く必要のある事柄を選び、それらを整理して書くようにすること。 内容を分かりやすくするため、書く事柄ごとの区切りや中心を考えて書いたり、話の要点を考えて話したりすること。 内容が読み手によく理解できるように、語と語との続き方に注意して文を整えたり、文と文との続き方を考えて文章を書いたりすること。
20	田源マサ	1980	生活表現(1) 自分の経験したことをもとに、簡単な文が書けるようにする。 詩的表現 身のまわりのことで思ったことをさがして、短く書けるようにする。 手紙 運動会にぜひきてほしいという気持ちがわかるような簡単な手紙文が書けるようにする。 記録/報告 一日の学習したことがらを、簡単なメモのような文で正しく書けるようにする。 感想 童話を読んでもらい、おもしろかったことや心に残ったことを簡単な文章で書くことができるようにする。 虚構 自分が空想することを<ゆめのくに>の形で自由に書けるようにする。	生活表現(1) 生きものの様子を自分が見たとおりに、正しく書くことができるようにする。 詩的表現 見つけたことや思ったことや考えたことを短い詩の形で書けるようにする。 手紙 お母さんに対してふだんから思っていることの中から、知らせたいことを選んで手紙が書けるようにする。 記録/報告 お店の様子をよく見て、見だしをつけて、だれにもわかる形で書けるようにする。 感想 童話を読んで想像したことや感動したことを、童話の主人公へあてた手紙の形で書けるようにする。 虚構 ことがらの順序を考え、読み手によく分かるようなおはなしを作れるようにする。	生活表現(1) 身近な生活の中から書くことを見つけ、書こうとすることがはっきり書けるようにする。 詩的表現 感じたこと、思ったことなどを、ことばのえらび方や使い方に注意して、生き生きと書けるようにする。 手紙 書くことの内容を整理し、文章の組み立てを考えて、相手によくわかる手紙文が書けるようにする。 記録/報告 植物や昆虫などの成長変化を観察し、それを正しく記録できるようにする。 感想 本を読んで、感心したこと、勉強になったことなどを、すじだけにとらわれないで書けるようにする。 虚構 ことがらを まとめて、簡単な構成のお話を作れるようにする。
21	小林喜三男	1980	文意題 1 文意題をもって話し・書かせる 2 主・述意題をもって話し・書かせる 3 一文一文につけ加え文をつけて話し・書かせる 4 最初に話題文…後を話し・書かせる 5 ※物語の二場面の絵を書き話し・書かせる	段落意題 6 トピックを選んで話し・書かせる 7 気もちを入れて話し・書かせる 8 段落意題をもって話し・書かせる 9 ※物語の場面数を想定させ話し・書かせる	主題意題 10 内容を予想してから話し・書かせる 11 主題意題をもって書かせる 12 時叙・詳叙を意題に書かせる 13 ※物語の梗概を書かせる
22	国分一太郎	1984	1 みたこと、したこと、きいたこと、おもったことを、ありのままに、すなおに、じゅんじょよくかく 2 よく思いだして、なるべく、くわしくかく 3 だれにもわかるようにかきつづる		1 おもいきって長い文をぐんぐんかく 2 よその人ではかけないような、おもしろい題をえらんでかく。ほようにかきつづる
23	浮橋康章	1988	経験・身近な事柄、簡単な文章・話。進んで表現。	事柄の順序。正しく表現	要点が分かるように、事柄ごとにまとまりのある簡単な文章・話。分かりやすく表現。

	(7) 文章を意味段落に分ける技能	
	(5) 問題の提示とその解決という展開の技能 (6) 展開の中心点やクライマックスの技能 (7) 文章展開における対比、原因結果、種類別、程度順などの技能 (8) 指示語や接続語の技能	
	(5) 読み手を考えて書くことがらをきめる技能	
	(5) ある項目(事項)群について、どこを山としてまとめるかという技能	
	(3) 説明の文および文章の基本型の技能 (4) 感想・意見の文および文章の基本型の技能	
	(3) 物語を改作する技能 (4) 自分で考えて物語を書く技能 (6) なにかを短いことばで書く技能	
	(1) 書式にしたがって書く技能 (2) 相手への尊敬や善意、礼儀正しさを示す技能 (3) 意図や用件をはっきりさせる技能	
	(4) あとになってもわかるように書く技能 (5) 項目を分けて書く技能 (6) 事実と意見とを分けて書く技能	
	(4) 具体的に書く技能 (5) ありのままに書き技能 (6) 会話などを入れて書く技能 (7) 中心点をはっきりさせて書く技能	
ア 自分の考えをはっきりさせたりまとめたりしてから、文章に書き表そうとすること。 イ 書く必要のある事柄を整理してから書く習慣をつけること。 ウ 書こうとすることの中心点が明確になるような書き方や、内容の中心点がよく分かるような話し方をすること。 エ 事象を客観的に文章に書き表すこと。 オ 内容が読み手によく理解できるようにするため、段落を考えて書き、また、段落と段落との続き方にも注意して書くこと。 カ 語句の使い方を工夫して書くこと。 キ 自分の書いた文章を読み返して、間違いを正したり、一層良い表現に書き改めたりすること。 ク 聞いたり読んだりした内容から、文章に書く素材を選んで書くこと。 ケ 筋道をはっきりさせて話すこと。	ア 文章に書いてみることによって、自分の考えを明確にすること。 イ 必要な事柄を観点ごとに整理して文章を書くことによって、生活や学習に役立てるようにすること。 ウ 主題や要旨の明確な文章を書いたり、筋道がはっきりしている話し方をしたりすること。 エ 事象と感想、意見などとを区別して文章に書き表そうとすること。 オ 内容が読み手によく分かるようにするため、段落のはっきりした文章を書き、また、段落と段落との関係が論理的に理解しやすい文章を書くこと。 カ 文の組立てや適切な語句の使い方を工夫して文章を書くこと。 キ 自分の書いた文章を読み返して、叙述の仕方について一層工夫するようにすること。 ク 聞いたり読んだりした内容から文章に書く素材を選んだり、読んだ文章の書き表し方を参考にしたりして文章を書くこと。 ケ 他人に伝えるために朗読すること。 コ 目的や意図に応じて的確に話すこと。	ア 文章を書くことによって、自分の考えを深めること。 イ 目的に応じて必要な事柄を落とさずに文章に書くことによって、生活や学習に役立てること。 ウ 根拠を明らかにし、それに基づいて自分の意見や主張を述べること。 エ 文章全体の構成を考え、目的に応じて文章を簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 オ 目的に応じて、事象と感想、意見などとを区別して文章に書き表すこと。 カ 目的に応じて、文や文章の組立て、語句の使い方などを効果的にすること。 キ 自分の書いた文章を読み返して、一層効果的な叙述の仕方について工夫すること。 ク 文章や話の内容、事柄などを要約して書いたり敷衍(ふえん)して書いたりすること。 ケ 聞き手にも内容がよく味わえるように朗読すること。 コ 目的や意図に応じて的確に話すこと。
自分の考えをはっきりさせたりまとめたりしてから、文章に書き表そうとすること。 書く必要のある事柄を整理してから書く習慣をつけること。 書こうとすることの中心点が明確になるような書き方や、内容の中心点がよく分かるような話し方をすること。 内容が読み手によく理解できるようにするため、段落を考えて書き、また、段落と段落との続き方にも注意して書くこと。	文章に書いてみることによって、自分の考えを明確にすること。 必要な事柄を観点ごとに整理して文章を書くことによって、生活や学習に役立てるようにすること。 主題や要旨の明確な文章を書いたり、筋道がはっきりしている話し方をしたりすること。 内容が読み手によく分かるようにするため、段落のはっきりした文章を書き、また、段落と段落との関係が論理的に理解しやすい文章を書くこと。	文章に書くことによって、自分の考えを深めること。 目的に応じて必要な事柄を落とさずに文章に書くことによって、生活や学習に役立てること。 根拠を明らかにし、それに基づいて自分の意見や主張を述べること。 文章全体の構成を考え、目的に応じて文章を簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 目的に応じて、文や文章の組立て、語句の使い方などを効果的にすること。
生活表現(1) 書きたいことを中心に文章を構成し、場面の様子や気持ちを生き生きと表現し、生活への見方、感じ方を深めさせる。 詩的表現 心に強く感じたことを自分自身のことばで、表現を工夫しながら詩に書けるようにする。 手紙 書こうとする中心をはっきりさせ、自分の気持ちや考えが相手によくわかる手紙が書けるようにする。 記録/報告 理科などで実験したことを、予想→準備→実験方法→結果などの順にまとめて正しく書けるようにする。 感想 読書して感じたこと、思ったことを読む人に分かるように書けるようにする。 虚構 自由に想像して書くことにより、文章を書く楽しさを増し、心情を豊かにさせる。	生活表現(1) 文章全体の構成を考え、主題要旨のはっきりした生活文が書けるようにする。 詩的表現 心に強く感じたことを、自分自身の言葉の効果や表現のしかたを工夫しながら詩に書けるようにする。 手紙 目的に合うように必要なことを整理し、組み立てを考えて、用件のはっきりした手紙が書けるようにする。 記録/報告 見学した事実に基づいて、要点のはっきりした報告が書けるようにする。 感想 書きたいことをまとめ、考えのはっきりした文章が書けるようにする。 虚構 場面の様子を想像して、豊かに描写できるようにさせ、組み立てや叙述のしかたを工夫して書けるようにする。	生活表現(1) 自分の気持ちや考えの深まりを書き表すために必要なことを落とさずに、構想をくふうして書けるようにする。 詩的表現 自分自身の目でとらえた感動を、言葉に気をつけて選択し、表現の工夫を考えながら詩に書けるようにする 記録/報告 各委員会、クラブ、登校班などの様子を、だれにも分かるように報告する文章が書けるようにする。 感想 日常生活の中で強く感じたことを中心に、自分の意見を正しく分かりやすく書けるようにする。 虚構 生活と想像とを関連させながら、効果的な表現のしかたを考え、ひとまとまりの物語を作らせる。
相手意識 14. 相手にわかるように意図して書かせる 15. 相手の質問を推量して説明文を書かせる 16. 誤りなく・正しく相手に伝えさせる 17. ※物語に評価を加え良書推セン文を書かせる	構想意識 18. 列挙・分類し段落を構成して書かせる 19. 構成が乱して事柄の核心から書かせる 20. 構想A・Bつくり、一つを選び書かせる 21. ※類似の二作品を比較し評論を書かせる	自己の客観化 22. 自己の信行を客観化して書かせる 23. 自説に対して反論を書かせる 24. 章のある文章(小論文)を書かせる 25. ※成長に益した作品を挙げ将来の進路を書かせる
んとうに、かきたくてたまらないことを、それが、だれにもわかる	1 おもむきのある文、味のある文をかきつづる 2 精叙と省略、描写と説明を区別してかく 3 構想をたてて、中心点をはっきりさせて、人の心をうつようにかく	
内容の中心点が分かるように、段落ごとの構成、段落相互の関係、意味のまとまり、経置。整理しながら表現。	主題・要旨のはっきりした表現、全体の構成、筋道。相手や場面の状況を考えて表現。	目的や内容にふさわしい文章・話。的確で効果的な表現。

24	文部省	1989	ア　尋ねられた事に答えたり、自分から進んで話したりすること。 イ　経験した事の順序を考えて話すこと ウ　書くための事柄を考えたり、見付けたりすること。 エ　見聞した事、経験した事などについて順序をたどって簡単な文章を書くこと。 オ　事柄を考えながら、語と語とを続けて簡単な文を作ったり、文と文とを続けて簡単な文章を書いたりすること。 カ　自分の書いた文や文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いなどに注意すること。 キ　正しく視写したり聴写したりすること。	ア　相手の話の内容を受けて話したり、自分から進んで話したりすること。 イ　事柄の順序を考え整理して話すこと。 ウ　書こうとする題材について必要な事柄を集めること。 エ　見聞した事、経験した事などについて順序を整理して文章を書くこと。 オ　事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して文章を書くこと。 カ　自分の書いた文章を読み返して、間違いなどを正そうとする習慣をつけること。 キ　正しく視写したり聴写したりすること。	ア　相手の話の内容を受けて話題に合わせて話すこと。 イ　話の要点が分かるように、区切りを考えて話すこと。 ウ　文章に書く必要のある事柄を選び整理してから書くこと。 エ　事柄ごとの区切りや中心を考えてから文章を書くこと。 オ　事柄と事柄との続き方を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して文章を書くこと。 カ　書こうとするものをよく観察してから書くこと。 キ　自分の書いた文章を読み返して、間違いなどを正すこと。 ク　聞いたり読んだりした内容から素材を見付け、その素材を使って表現してみること。 ケ　正しく視写したり聴写したりして、いろいろな書き表し方のあることに気付くこと。
25	国語教育研究所編	1996	「生活文」の作文技術 ①　文章表現力の基礎を養う。 　生活の中で体験したさまざまな事柄について感じたり考えたりしたこと等を表現することにより、文章を書く楽しさを知るとともに文章表現力の基礎を養う。 ②　豊かな心情や思考力の育成を目指す内面的な耕しにも役立つ。 　①が中心であり、②が中心になってはならない。 「意見文」の作文技術 ①　具体的な根拠に基づいて意見を書き表すことを通して、論理的な文章を書く力の基礎を育てる。 ②　事実に即して考える力を育てるとともに、自分の生活を見つめる態度を育てる 「報道文」の作文技術 ①　文章表現力の基礎を養う。 　報道文を書くためには、その目的に応じて取材をし、文章の組み立てを考え、読み手にわかりやすい表現をすることが必要である。 　書く活動を通して、文章に対する態度や能力を身につけることができる ②　出来事をくわしく、正確にとらえることは、正確に出来事をとらえようとする目を育てることができる。 　5WIHで、出来事をとらえることは、正確に出来事をとらえようとする目を育てる。それとともに論理的な思考力を併せて育てることができる。 　いずれにしても①が中心であり、その結果、②ができるようになると考えてよい。 「対話・インタビュー」の作文技術 ①　文章表現力の基礎を養う。 　知りたいこと・新しく知ったことの情報を理解したり、情報の内容をわかりやすく伝えることにより、文章表現力の基礎を養う。 ②　相手の言おうとすることを正しく理解することを通して、豊かな心情や確かな表現力を育成する。	「生活文」の作文技術 ①　文章表現力の基礎を養う。 　生活の中で体験したさまざまな事柄について感じたり考えたりしたこと等を表現することにより、文章を書く楽しさを知るとともに文章表現力の基礎を養う。 ②　豊かな心情や思考力の育成を目指す内面的な耕しにも役立つ。 　①が中心であり、②が中心になってはならない。 「意見文」の作文技術 ①　具体的な根拠に基づいて意見を書き表すことを通して、論理的な文章を書く力の基礎を育てる。 ②　事実に即して考える力を育てるとともに、自分の生活を見つめる態度を育てる 「報道文」の作文技術 ①　文章表現力の基礎を養う。 　報道文を書くためには、その目的に応じて取材をし、文章の組み立てを考え、読み手にわかりやすい表現をすることが必要である。 　書く活動を通して、文章に対する態度や能力を身につけることができる ②　出来事をくわしく、正確にとらえることは、正確に出来事をとらえようとする目を育てることができる。 　5WIHで、出来事をとらえることは、正確に出来事をとらえようとする目を育てる。それとともに論理的な思考力を併せて育てることができる。 　いずれにしても①が中心であり、その結果、②ができるようになると考えてよい。 「対話・インタビュー」の作文技術 ①　文章表現力の基礎を養う。 　知りたいこと・新しく知ったことの情報を理解したり、情報の内容をわかりやすく伝えることにより、文章表現力の基礎を養う。 ②　相手の言おうとすることを正しく理解することを通して、豊かな心情や確かな表現力を育成する。	「生活文」の作文技術 ①　文章表現力の基礎を養う。 　生活の中で体験したさまざまな事柄について感じたり考えたりしたこと等を表現することにより、文章を書く楽しさを知るとともに文章表現力の基礎を養う。 ②　豊かな心情や思考力の育成を目指す内面的な耕しにも役立つ。 　①が中心であり、②が中心になってはならない。 「意見文」の作文技術 ①　具体的な根拠に基づいて意見を書き表すことを通して、論理的な文章を書く力の基礎を育てる。 ②　事実に即して考える力を育てるとともに、自分の生活を見つめる態度を育てる 「報道文」の作文技術 ①　文章表現力の基礎を養う。 　報道文を書くためには、その目的に応じて取材をし、文章の組み立てを考え、読み手にわかりやすい表現をすることが必要である。 　書く活動を通して、文章に対する態度や能力を身につけることができる ②　出来事をくわしく、正確にとらえることは、正確に出来事をとらえようとする目を育てることができる。 　5WIHで、出来事をとらえることは、正確に出来事をとらえようとする目を育てる。それとともに論理的な思考力を併せて育てることができる。 　いずれにしても①が中心であり、その結果、②ができるようになると考えてよい。 「対話・インタビュー」の作文技術 ①　文章表現力の基礎を養う。 　知りたいこと・新しく知ったことの情報を理解したり、情報の内容をわかりやすく伝えることにより、文章表現力の基礎を養う。 ②　相手の言おうとすることを正しく理解することを通して、豊かな心情や確かな表現力を育成する。
26	文部省	1998	ア　相手や目的を考えながら、書くこと。 イ　書こうとする題材に必要な事柄を集めること。 ウ　自分の考えが明確になるように、簡単な組立てを考えること。 エ　事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書くこと。 オ　文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに注意すること。		ア　相手や目的に応じて、適切に書くこと。 イ　書く必要のある事柄を収集したり選択したりすること。 ウ　自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えること エ　書こうとする事の中心を明確にしながら、段落と段落との続き オ　文章のよいところを見付けたり、間違いなどを正したりすること
27	文部科学省	2008	ア　経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。 イ　自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ウ　語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 エ　文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。 オ　書いたものを読み合い、よいところを見付けて感想を伝え合うこと。	ア　経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。 イ　自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ウ　語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 エ　文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。 オ　書いたものを読み合い、よいところを見付けて感想を伝え合うこと。	ア　関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。 イ　文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。 ウ　書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。 エ　文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 オ　文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 カ　書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。

ア　相手や場に応じて内容の軽重を考えて話すこと。 イ　話の中心点が分かるように、筋道を立てて話すこと。 ウ　自分の考えをはっきりさせたりまとめたりしてから表現すること。 エ　書く必要のある事柄の順序や軽重を考え、整理してから書くようにすること。 オ　書こうとする事の中心点が明確になる書き方を考えて文章を書くこと。 カ　段落を考えて書き、また、段落と段落との続き方にも注意し文章を整えて書くこと。 キ　事象を客観的に文章に書き表すこと。 ク　自分の書いた文章を読み返して間違いなどを正し、分かりやすい文章に直すこと。 ケ　聞いたり読んだりした内容から素材を選び、その表現の仕方を参考にして自分の表現に生かすこと。	ア　相手や場に応じて適切な言葉を使い、それらの状況を考えて話すこと。 イ　意図をはっきりさせて根拠を明らかにしながら話すこと。 ウ　聞き手にも内容が分かるように朗読すること。 エ　自分の考えを明確にし、表現することによって更に考えを確かにすること。 オ　主題や要旨を考えて事柄を選び、観点ごとに整理してから書くようにすること。 カ　主題や要旨が明確に表れるように、構成を考えて文章を書くこと。 キ　段落のはっきりした文章を書き、また、段落相互の関係を考えて文章を書くこと。 ク　事象と感想、意見などとを区別して文章に書き表そうとすること。 ケ　自分の書いた文章を読み返し、叙述の仕方について工夫すること。 コ　聞いたり読んだりした内容から素材を選び、構成や叙述などの優れている点を参考にして表現すること。	ア　目的に応じて時間や話題の順序などを考え、計画的に話すこと。 イ　目的や意図に応じて適切に話すこと。 ウ　聞き手にも内容がよく味わえるように朗読すること。 エ　主題や意図をはっきりさせ、表現することによって更に自分の考えを深めること。 オ　目的に応じて必要な事柄を集め、全体を見通し整理してから書くようにすること カ　全体の構成を考え、目的に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 キ　目的に応じて、文や文章の組立ての効果を考えたり、文章全体の流れを考えたりして書くこと。 ク　根拠となる事象と感想、意見などとを区別して文章に書き表すこと。 ケ　自分の書いた文章を読み返し、効果的な叙述の仕方について工夫すること。 コ　文章や話の内容、事柄などを要約したり敷衍(ふえん)したりして表現すること。
「生活文」の作文技術 ①　自分の考えたことや感じたことを文章に表現する基礎力を養う。 　生活文は単に作文としてだけではなく、記録、日記、報告等の様々な表現方法にもつながる。 ②　人間の成長に必要なものの見方考え方を養う。 　書くことによって、自分のまわりの生活を見つめ考え、さらにどう表現するかは人間の成長にとって欠かすことはできない。 「意見文」の作文技術 ①　根拠を明らかにし、それに基づいて意見や主張を書き表すことを通して、論理的な文章を書く力を育てる。 ②　ものごとに対する主体的な認識力を育てるとともに、生活をより高めようとする態度を育てる 「報道文」の作文技術 ①　文章表現力の基礎を養う。 　報道する目的に応じて、必要な事柄を取材し、文章全体の構成を考え、簡単に書いたり詳しく書いたりする表現力を育てる。 ②　出来事を客観的に理解する能力を養う。 　文章や話の内容、事柄などを要約したり、わかりやすく詳しく書いたりして表現する活動を通して、同時に理解能力を養うことができる。 「対話・インタビュー」の作文技術 ①　文章表現力の基礎を養う。 　目的に合わせて収集した情報を正しく理解し、相手や目的に合わせて再構成して伝えることにより、文章表現力の基礎を養う。 ②　相手が伝えたいことを正しく理解することを通して、豊かな心情や確かな表現力を育成する。	「生活文」の作文技術 ①　自分の考えたことや感じたことを文章に表現する基礎力を養う。 　生活文は単に作文としてだけではなく、記録、日記、報告等の様々な表現方法にもつながる。 ②　人間の成長に必要なものの見方考え方を養う。 　書くことによって、自分のまわりの生活を見つめ考え、さらにどう表現するかは人間の成長にとって欠かすことはできない。 「意見文」の作文技術 ①　根拠を明らかにし、それに基づいて意見や主張を書き表すことを通して、論理的な文章を書く力を育てる。 ②　ものごとに対する主体的な認識力を育てるとともに、生活をより高めようとする態度を育てる 「報道文」の作文技術 ①　文章表現力の基礎を養う。 　報道する目的に応じて、必要な事柄を取材し、文章全体の構成を考え、簡単に書いたり詳しく書いたりする表現力を育てる。 ②　出来事を客観的に理解する能力を養う。 　文章や話の内容、事柄などを要約したり、わかりやすく詳しく書いたりして表現する活動を通して、同時に理解能力を養うことができる。 「対話・インタビュー」の作文技術 ①　文章表現力の基礎を養う。 　目的に合わせて収集した情報を正しく理解し、相手や目的に合わせて再構成して伝えることにより、文章表現力の基礎を養う。 ②　相手が伝えたいことを正しく理解することを通して、豊かな心情や確かな表現力を育成する。	「生活文」の作文技術 ①　自分の考えたことや感じたことを文章に表現する基礎力を養う。 　生活文は単に作文としてだけではなく、記録、日記、報告等の様々な表現方法にもつながる。 ②　人間の成長に必要なものの見方考え方を養う。 　書くことによって、自分のまわりの生活を見つめ考え、さらにどう表現するかは人間の成長にとって欠かすことはできない。 「意見文」の作文技術 ①　根拠を明らかにし、それに基づいて意見や主張を書き表すことを通して、論理的な文章を書く力を育てる。 ②　ものごとに対する主体的な認識力を育てるとともに、生活をより高めようとする態度を育てる 「報道文」の作文技術 ①　文章表現力の基礎を養う。 　報道する目的に応じて、必要な事柄を取材し、文章全体の構成を考え、簡単に書いたり詳しく書いたりする表現力を育てる。 ②　出来事を客観的に理解する能力を養う。 　文章や話の内容、事柄などを要約したり、わかりやすく詳しく書いたりして表現する活動を通して、同時に理解能力を養うことができる。 「対話・インタビュー」の作文技術 ①　文章表現力の基礎を養う。 　目的に合わせて収集した情報を正しく理解し、相手や目的に合わせて再構成して伝えることにより、文章表現力の基礎を養う。 ②　相手が伝えたいことを正しく理解することを通して、豊かな心情や確かな表現力を育成する。
と。 万に注意して書くこと。 と。	ア　目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書くこと。 イ　全体を見通して、書く必要のある事柄を整理すること。 ウ　自分の考えを明確に表現するため、文章全体の組立ての効果を考えること。 エ　事象と感想、意見などとを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 オ　表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。	
ア　関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。 イ　文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。 ウ　書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。 エ　文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 オ　文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 カ　書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。	ア　考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。 イ　自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。 ウ　事実と感想、意見などとを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 エ　引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。 オ　表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 カ　書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。	ア　考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。 イ　自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。 ウ　事実と感想、意見などとを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 エ　引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。 オ　表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 カ　書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。

文献一覧

番号	著者	年	著書名・章題名	編者	年	著書名	号	表掲載頁	出版社	備考
1	小島忠治	1950	教育文化新書　國語表現学習の研究					22-37	教育文化社	
2	文部省	1951	小学校学習指導要領国語科編(試案)改訂版							昭和26年度版
3	倉澤栄吉	1952	作文教育の大系					66-70	金子書房	
4	波多野完治・滑川道夫	1953	作文教育新論					131-140	牧書店	滑川道夫作成
5	八木清視	1953	わたしの作文指導系統案(A案)	石黒修・滑川道夫・西原慶一・平井昌夫・増淵恒吉　編	1953	国語教育実践講座　第4巻　作文・書きかたの学習指導		200-201	牧書店	入門期・低学年・中学年・高学年の区分
6	猪股辰弥・西村省吾	1954	作文はこうして指導する　低学年用					19-24	光風出版	
7	教師養成研究所国語科教育部会	1955	国語科教育研究叢書　第1集　作文指導法					236-247	学芸図書	
8	高野柔蔵	1955	小学校低学年における作文教育の指導	全日本国語教育協議会編	1955	明治図書講座　国語教育　第5巻　作文教育		167-169	明治図書	
9	大原輝男	1957	小学校高学年の作文指導	西尾実・古田拡・仲田鷹幸　編	1957	作文の教育2　作文指導の実際		260-263	習文社	
10	文部省	1958	小学校学習指導要領							昭和33年度版
11	佐古田好一	1960	作文指導の内容と系統　1　小学校	倉澤栄吉　編	1960	実践講座　国語教育　第7巻　作文指導		83-86	牧書店	
12	大阪綴方の会	1961	作文指導の学年別系統案	日本作文の会　編	1964	作文指導系統案集成		6-17	百合出版	系統表中の「表現技術」欄の内容を記述した。
13	文部省	1968	小学校学習指導要領							昭和43年度版指導要
14	東京八南作文の会	1963	小中学校文章表現系統案	日本作文の会　編	1964	作文指導系統案集成		79-97	百合出版	
15	静岡・沼津作文の会	1963	作文指導系統試案	日本作文の会　編	1964	作文指導系統案集成		49-67	百合出版	
16	石田佐久馬	1964	これからの作文指導-だれもが書ける作文をめざして-					108	東洋館出版社	
17	輿水実	1968	序説　国語科の基本的技能	輿水実　編	1968	国語科基本的技能の指導6　作文技能		29-32	明治図書	
18	文部省	1977	小学校学習指導要領							昭和52年度版
19	瀬川栄志	1979	国語科「表現」領域の指導	飛田多喜雄・藤原宏　編	1979	新国語科教育講座　第二巻　表現領域編		142-145	明治図書	「昭和52年版学習指導要領国語科」の内容を整理したものであると説明されている。
20	田瀬マサ	1980	作文の指導計画をいかに立てるか	樺島忠夫・中西一弘　編	1980	作文指導事典		443-450	東京堂出版	年間計画の立て方の例として、小田原市山王小の指導計画が系統表の形で示されている。 その中の「目標」の内容を記述した。
21	小林喜三男	1980	文章表現・系統的指導(試案)	自動言語研究会　編	1980	国語の授業	38号	18	一光社	
22	国分一太郎	1984	ほるぷ現代教育選集12　新しい綴方教室					171-172	ほるぷ	
23	浮橋康彦	1988	作文指導　作文指導の目標	国語教育研究所　編	1988	国語教育研究大辞典		383-384	明治図書	「昭和52年度学習指導要領国語科」の「能力・態度」の要点を摘記したものであると説明されている。
24	文部省	1989	小学校学習指導要領							平成元年度版
25	国語教育研究所編	1996	「作文技術」指導大事典					196,200 (生活文) 225,230 (意見文) 302,306 (報道文) 316,320 (対話・インタビュー)	明治図書	「生活文」 低学年：貴戸紀彦、高学年：渡辺知樹 「意見文」 近藤章 「報道文」 低学年：山田一、高学年：嶋田崇人 「対話・インタビュー」 低学年：吉永幸司、高学年：髙野靖人
26	文部省	1998	小学校学習指導要領							平成10年度版
27	文部科学省	2008	小学校学習指導要領							平成20年度版